

## 海外留学報告書（専門科目履修者用）

## ●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2022年8月～12月
派遣大学名	ガジャ・マダ大学	所属学部等	農学部、動物科学部

## ●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Introduction to livestock production science	PTD2113001	3	内容は易しい。
Basic of Animal Nutrition	PTN2113003	2	内容は易しい。
Fundamentals of Fish Technology	PIT20192111	2	2回ともテストは選択問題だが細かいところを聞かれるので割と難しかった。
Microbial Bioremediation in Agriculture	PNM20193121	2	中間テストが難しかった。
Traditional Fermented Food of Indonesia	PNM20193122	2	グループプレゼンが3回あったがテストは易しめ。

## ●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00			Fish	Nutrition			
08:00			Fish	Nutrition			
09:00			Microbial	Fermented			
10:00			Microbial	Fermented			
11:00		Livestock					
12:00		Livestock					
13:00		Livestock					
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
18:00							
集中講義等	Introduction to livestock production science (assistance 11/7 15:30~16:30, 11/24 15:30~16:30)						

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦勞した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他			○		
その他特筆すべきこと（任意記述）：simaster で授業の変更は知らされるがすべてインドネシア語のため、把握が難しいことがあった。					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地		○			
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について		○			
・休暇を利用した課外活動への参加	○				
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか	○				
その他特筆すべきこと（任意記述）：					

#### 授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

faculty of animal science の授業（introduction to livestock production science, basic of animal nutrition）では、おもに家畜の身体づくりや栄養素の消化・吸収の仕方などを学んだ。introduction to livestock production science の assistance では、鶏の内臓を実際に見ながら卵がどのように作られるのかや消化・吸収の仕組みを学んだ。

Fundamentals of Fish Technology では魚の栄養素や体のづくり、保蔵方法、加工方法など、食べ物としての魚について幅広く学んだ。日本語が少し話せる教授が担当していた回は日本の漁業や魚の話を交えて授業をしてくれた。日本では学んでいない範囲がほとんどなので新鮮ではあったがわからない単語が多く、調べるのが大変だった。

Microbial Bioremediation in Agriculture ではバイオレメディエーションについて詳しく学んだ。土壌微生物についての内容が多かった。

Traditional Fermented Food of Indonesia ではインドネシアの発酵食品の作り方や栄養分、発酵に使われる微生物などについて詳しく学んだ。インドネシアの発酵食品をたくさん知ることができたのでインドネシアの食べ物に対する知識が広がって、インドネシア料理を食べるのが楽しくなった。発酵食品に関するグループプレゼンが3回ほどあった。

#### 海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

電子辞書を常に持って授業を受けて、わからない単語が出てきたらすぐ電子辞書で調べてノートにメモしていた。授業内容をテスト前にもらった授業資料を翻訳しながら word ファイルやノートにまとめ直していた。授業資料は PDF 形式がほとんどなのでタブレットを持って行って書き込みながら勉強ができればもっと効率的にテスト勉強ができたと思う。また、授業資料にはインドネシア語が混ざっていることがよくあるのでグーグル翻訳や deepL を活用していた。テストは中間テストと期末テスト、2回あったが、筆記の試験は授業の内容を理解したうえで個人の考え方を聞く問題が多かったのでただ授業内容を暗記するだけの勉強法は合わないと思った。

#### 多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

日本とは違う文化や価値観に触れることで、自分の視野を広げることができたと思う。お茶を注文するとすごく甘いお茶が出てきたり、インドネシア人は時間にルーズな人が多かったりといった日本との文化や考え方の違いを目の当たりにして最初は驚いた。しかしインドネシアでの生活を続けるうちにそれらを受け入れられるようになり、様々なことを経験して結果的に自分の視野を大きく広げることができた。留学前から広い視野を持つことの大切さは認識していたつもりだが、自分の視野がどれだけ広いのかを認識してそれを広げることができたのは留学に行って日本とは違う文化や価値観にたくさん触れられたからだと思う。

### 留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

留学を経て学んだことの一つとして積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢の大切さがある。特にそれを感じたのは食べ物屋さんでの注文である。インドネシアに来た当初に日本人だけで現地の食べ物屋さんに行ったときは店員さんの話すインドネシア語が理解できず、注文にて手間取ることが多かった。しかし、現地のバディーや友人にインドネシア語を少し教えてもらいそれらの単語を駆使しながら店員さんとコミュニケーションを図ろうとすると、店員さんも親身になって注文を聞いてくれ、慣れてくるとだいぶスムーズに注文ができるようになった。言語レベルがすごく低くても、伝えようとする姿勢を見せると相手も聞こうとしてくれる。伝えようとする姿勢を持つことが意思疎通における第一歩だと思う。この経験を踏まえて、今後は外国人のみならず、日本人に対しても積極的にコミュニケーションをとっていき、関わっていく人々とより良い人間関係を築いていきたいと思う。

### 派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

バディーや大学の友人たちがみんな優しくかった。私たちのことに常に気をかけてくれ、困ったことやトラブルがあったときにはとても親身にサポートしてくれた。また、おすすめの観光地や食べ物屋さんにもたくさん連れて行ってくれた。そのおかげで、インドネシアで充実した日々を過ごすことができた。

また、同じキャンパス内にたくさんの学部があり、一つ一つの学部には食堂があるのでいろいろな学部の食堂で様々な食べ物を食べることができた。特にやはり農学部の食堂を利用する機会が一番多かったが、メニューが豊富で値段も非常に安かったので食堂でお昼ご飯を食べるのが大学に行く楽しみになっていた。

### 同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

大学のあるジョグジャカルタは治安が比較的良く、程よく栄えていて基本生活に困ることが無いので快適に過ごすことができます。街中のお店の方はインドネシア語しか話せない人が多いですがいい人ばかりなので積極的にコミュニケーションを図ると親身になって言いたいことを理解しようとしてくれます。大学のキャンパス内はすごく広いので建物間や学部間の移動が結構大変で、（私のように）方向音痴の方はキャンパス内で迷子になる可能性があります。授業は基本午前中に終わるし全休の日もあると思うので特に留学後半は空いている時間ができると思いますが、そんな日もやることを探して一日一日を大切に過ごすべきです！留学期間は案外あっという間に時間が過ぎていきます！

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



## 海外留学報告書（専門科目履修者用）

## ●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2022年8月～12月
派遣大学名	ガジャマダ大学	所属学部等	農学部・動物科学部

## ●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Traditional fermented food of Indonesia	PNM20193122	2	数回のプレゼン、中間は持ち込み可
Microbial bioremediation in agriculture		2	記述メインの中間・期末 授業内容の理解に加えて英語の記述力も必要
Basics of fish technology	PIT20192111	2	基礎的な内容だが期末は問われる内容が細かく大変だった。
Introduction to livestock production science	PTD2113001	3	中間は簡単な記述だったが、期末は細かな内容まで問われた
Basics of animal nutrition	PTN213303	2	Livestock と同様

## ●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00			fish	nutrition			
08:00							
09:00			microbial	fermented			
10:00							
11:00		livestock					
12:00							
13:00							
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
集中講義等	Introduction to livestock production science のみ 11/7、11/29 簡単な実習（鶏の消化器系をスライドでの紹介、実物を観察、終わりに確認テスト）						

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他		○			
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：</p> <p>基本的に授業は英語で行われる。たまに先生がインドネシア語で話すときやスライドがインドネシア語になっていることがあったが、英語でも解説してくれる。理解できなければ周りの生徒に聞くのもあり。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他	○				
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地			○		
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について	○				
・休暇を利用した課外活動への参加					
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応	○				
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか					
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：・ 3, 4 回体調を崩したが毎回バディーに同行してもらって大学のクリニックで診察してもらった。もらう薬は市販薬。</p> <p>・インドネシア料理は個人的に口に合ったが、基本的にココナッツやスパイスの味が強いため好みは分かれる。</p> <p>・農学部の設備は古め。トイレも一つの建物以外は水汲みタイプ。動物科学学部で授業を受ける建物はトイレも含めてきれい。</p> <p>・寮（コス）は月 1,500,000 ルピア。シャワートイレ、お湯、エアコン付き。電気代は別</p>					

#### 授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Traditional fermented food は授業名の通りインドネシアの発酵食品について学んだ。内容は製造法や材料、製造に関連する微生物の働きや健康上の利点などについて学ぶ。食品微生物学に似ている。数回のプレゼンがあり、インドネシアの発酵食品と外国のものとの比較や、製造法をどう改善できるかなどについて調べた。日本の発酵食品についても学ぶので日本との違いが学べて面白かった。

Microbial bioremediation は微生物を用いて農業が原因の環境汚染を防止・改善する方法などについて学んだ。

Basics of fish technology は魚の構造・処理法など魚や漁業について幅広く学んだ。担当の先生の一人は日本で博士号を取られた方で、日本語が少し話せる優しい先生だった。

Introduction to livestock production science は反芻動物、乳牛、家禽、豚など家畜について幅広く学んだ。

Basic animal nutrition は飼料の栄養素、動物の栄養化学について学んだ。茨大の食品機能学、代謝生化学の家畜 ver のような授業。

#### 海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

英語の授業を2時間近く集中して聞いているのは無理なので周りの生徒と授業内容について話したり、雑談しながら聞いていると集中力が持つ。授業資料は聞かないとくれない先生もいるため、直接お願いするか授業のグループチャットで聞く、もしくは同じ授業を取ってる生徒にメッセージを送れば大抵は手に入れられる。

#### 多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

インドネシアの多様な文化・価値観は新たな環境を理解し、慣れる努力をする態度を身につけさせてくれた。最初は日本の環境と全く異なり毎日戸惑いの連続だった。だが生活していると宗教や気候の違いについて学ぶうちになぜ物事がそのようなのが少しずつ理解できるようになり、戸惑いが新たな発見に変わった。新しい環境や日本と異なる点に対して苦手意識を持ち続けるとネガティブな気持ちになることが多くなり、留学をあまり楽しめないと思う。留学中はその環境を変えることができないとわかっているなら異なる環境に対する態度を変えてみる、慣れようとする努力をする、日本との違いを積極的に楽しむなどの態度を得られた。



留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

改めて海外の人と触れ合うことの楽しさや、日本とは異なる環境で生活する新鮮さを実感することができた。日本では体験することのできない環境や文化、日本人との物事に対する考え方の違いなど留学することでしか得られない知識・体験を得られて人として成長できる留学だったと思う。留学前はインドネシアについての知識はほぼなかったが、留学を経てこの国についてより学びたいと感じた。得られたことを具体的にどう活かせるかはまだわからないが、留学前よりは様々なことに対して興味を持つことができただけで自身の将来の幅は広がったと感じる。

派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

ガジャマダ大学には18も学部があるため、様々な学生がいる。頻繁に会うことはないがクラブやスポーツイベントに参加すれば他学部でも友達ができるかも。大学の学祭的なイベントが定期的であり、規模も大きくてとても楽しい。他大学からの日本人留学生もいるので日本人の知り合いもできる。（他学部なので一緒に授業を受けることはない）先生方に日本で学位を取得された方たちもいて、日本語で話しかけてくださったりしてとても優しい。UGMが位置するジョグジャカルタ全体のいい点としては、観光地がたくさんあり週末にやることや訪れる場所が尽きるといことはまずない。駅、空港も近くにあるのでジョグジャカルタ以外の場所への旅行もしやすい。また国内でも特に物価が安く、お財布にとっても優しい。インドネシア料理の食事なら平均で一食15,000~50,000ルピア（12/2022時点で約130円~440円）。洋食、日本食（丸亀、ラーメン、吉野家など）もモールに行けばたくさんある。

同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

動物科学部(Fapet)で受ける授業はほとんどの現地生徒が受けるものとは異なり、すべて英語で開講されるIUP(International Undergraduate Program)で受ける。授業は15人程度の少人数で行われる。しかし、現地生徒が授業を休み、茨大生を含めて4人だけで受けたことや、授業振替・休講の連絡が直前に送られてくる、最悪送られて来ないということもあり振り回されることが多かった。UGMに限ったことではないが、インドネシアや東南アジアの国は気候、食文化、生活様式など日本とは全く異なる点が多いため体調を崩しやすい。自分は元々体調を崩しやすい体質のため月一で熱+下痢になっていた。個人差はあるが、留学中一度は体調を崩すと思って臨むべきだと思う。インドネシアにももちろん薬やポカリスエットなどがあるが、不安なら日本から持ってくるのもあり。UGMのクリニックは無料で診てもらえるので海外保険・お金を使うことはなかった。

留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）



## 海外留学報告書（専門科目履修者用）

## ●基礎情報

学科	食生命科学科	コース	国際食産業科学コース
派遣国名	インドネシア	派遣期間	2022年8月～12月
派遣大学名	ガジャマダ大学	所属学部等	農学部・動物学部

## ●履修科目

科目名	科目コード	単位数	難易度（簡易な自由記述）
Introduction to Livestock Production Science	PTD2113001	3	全て記述テストで、覚えることが多かった。
Basic of Animal Nutrition	PTT2113303	2	上の授業と似た内容なので、同様。中間テストは report かテストか生徒が決められた。
Fundamental of Fish Technology	PIT20192111	2	内容量は多いが、全て選択問題のテストだった。
Microbial Bioremediation in Agriculture	PNM20193121	2	授業を聞いて内容を理解し、復習で全体が把握できれば大丈夫。
Traditional Fermented Food of Indonesia	PNM20193122	2	プレゼンテーションが多いが、現地の学生が助けてくれるので難しくない。テストが選択問題だった。

## ●おおまかな週間スケジュール（時間区分は適宜変更可）

	月	火	水	木	金	土	日
07:00			Fish	Animal nutrition			
08:00			Fish	Animal nutrition			
09:00			Microbial	Fermented			
10:00			Microbial	Fermented			
11:00		Livestock					
12:00		Livestock					
13:00		Livestock					
14:00							
15:00							
16:00							
17:00							
集中講義等	Livestock Production に assistance（実習ではない）があった。（2回あり各1時間程度）。他はなし。 授業と関係ないが、Plantation trip があった。（8/26-28）						

●現地科目に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
授業の内容はわかりやすかったですか？ ①日本と同様の姿勢で受けることができた ②わからない部分は努力で克服した ③あまりわからず焦っていた ④大部分諦めてしまった ⑤その他	○				
授業の英語はわかりやすかったですか？ ①わかりやすい英語で理解できた ②ほとんど問題なかった ③わかりにくく苦労した ④理解が困難だった ⑤主に現地言語が使用されていた		○			
シラバスや事前説明に沿って授業が進められていましたか？ ①計画通りに授業が進行した ②一部内容が異なったが問題なかった ③内容が突然変更されて困った ④全く内容が違った ⑤その他		○			
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：授業によって、たまにインドネシア語が混ざる先生がいるが、分からなくても大丈夫。Fish には日本語がちょっと話せる先生がいた。自分から積極的に行かないと、なかなか授業スライドをアップロードしない先生も多い。全てのテストで電子辞書は持ち込み OK だった。</p>					

●現地生活に関する基礎アンケート（該当する項目に○）

設問	①	②	③	④	⑤
現地学生とのコミュニケーションはいかがでしたか？ ①日本人学生と同様のコミュニケーションが取れた ②意思疎通がとれ、一緒に遊びに行ったりもした ③あまりコミュニケーションを取れなかった ④引きこもっていた ⑤その他		○			
以下、学生生活に関する各項目について評価をお願いします。 ①非常に良かった ②良かった ③普通 ④悪かった ⑤非常に悪かった	/	/	/	/	/
・寮や宿舎の住み心地	○				
・大学の設備（講義室や実験室等）		○			
・現地での食事について			○		
・休暇を利用した課外活動への参加		○			
・体調を崩した時の相手大学担当教職員の対応	○				
・その他トラブルがあった時の相手大学担当教職員の対応		○			
・病気やトラブルがあった時に現地友人が助けてくれたか	○				
・病気やトラブルがあった時の現地日本人学生が助けてくれたか				○	
<p>その他特筆すべきこと（任意記述）：私は大きなトラブルが起こったことがないため、対応については何も言えない。しかし、下痢は定期的起こしていた。大学のトイレは汚いが、Animal Science の学部や農学部の AGLC などきれいな場所もあるのでなるべく選ぶようにした。とても好き嫌が多い私でも美味しいと感じる料理がいくつかあったので最初は何でも挑戦すると良い。学食のお店の人はインドネシア語しか話せないが、近くにいる現地の学生は知らない人でも英訳してくれるので特に困らなかった。</p>					

#### 授業で学んだ専門的な内容について（400字程度）

Introduction to Livestock Production Science では主に多胃動物・単胃動物の消化システムについて勉強した。ほぼ知識がない状態で受けたので最初は勉強が大変だったが、何度も授業にでてくる内容なので理解しやすかった。Animal nutrition では家畜の飼料・消化について勉強した。日本で少し勉強した内容もあったのでところどころ聞いたとある内容だった。Microbial は、私自身が微生物学苦手だったので構えていたが、内容はわかりやすかった。Composting の仕組みについて勉強したので土壌学に近かった。テストでは自分の意見を書く問題もあったので少し難しいと感じた。Fish Technology では魚の栄養価・水産物加工などについて学んだ。知識がない状態だったが日本の'surimi'なども出てきて内容は面白かった。Fermented food ではインドネシアの発酵食品について勉強し、先生がもってきてくれて実際に食べてみた。何度かのプレゼンテーションで発酵食品について調べるので理解もしやすく、中間テストは持ち込み選択問題だったので、気持ちが軽く、とても興味深い内容だった。期末は記述。

#### 海外の大学で授業を履修するにあたって工夫した点および反省点（300字程度）

授業は Power point を用いた授業で、事前にスライドをもらえるわけではないので、最初は全て聞きとるのが大変だった。テスト勉強にレジュメは必須。どんな問題が出るか全く分からなかったが、記述テストに関しては持ち込みなしだが、全体の内容を把握していれば解ける問題も多かった。日本語でも聞いたことない単語に関しては英語で覚えてしまったほうが良いと感じた。グループプレゼンテーションは、動き始めがはやくて2日前、基本的には前日なので最初は驚いたが慣れば大丈夫なので焦る必要もない。プレゼンに対する質問は現地の学生が答えてくれるので有り難かった。勉強はひとりで行っていたが、現地の学生と一緒にすれば、大事なところや傾向を教えてもらえたのかもしれない。

#### 多様な文化・価値観に触れることで得られたこと（300字程度）

宗教と生活が結びついている国に行くのは初めてだったので、生活していて新しい発見も多く楽しかった。やはりインドネシア人は時間にルーズであったが、私自身もともとルーズな人間だったのでなじむのは容易だった。しかし、日本で身についた固定概念というものは根深く、日本での当たり前をインドネシアでも当たり前だと思い込み、甘いお茶や学校主催の研修などで困ることも多かった。また、イスラム教の影響で金曜のお昼は営業を中断しているお店が多かったのだが、無知識で行って失敗することもあった。日本と他の国は別の物だとしっかり頭に入れた上で、その国の文化を学ぶことが本当の異文化理解につながると感じた。

### 留学で得た知識・経験を、自身の将来にどのように活かしていくか（400字程度）

上記でも記載した通り、自分の中の固定概念は壊されたので、社会に出たときやこれから出会う様々な人間に偏見なく、柔軟に対応できるようになると感じた。留学で得たことを全て言葉にしろと言われていたら難しいが、自分の世界観はかなり広がった。就職してグローバルな人間になることについて軽く考えていたが、留学をして今の自分に足りないものがはっきり見えてきた。また、自分の意見をはっきり言わなくてはいけないことを、友人や教授、現地の人々と接していく上で身にしみて学んだので、日本人特有の「大丈夫です」ではなく、YesかNoでしっかり答えるようになった。そのおかげで、常に自分の意見を強く持つ人間に一步成長したことは社会でかなり役立つと思う。

### 派遣先大学で特に良かった点（300字程度）

現地の学生・教授はとても優しいです。動物学部には日本語を話せる先生がいるのでおそらく交流があると思います。私たちはたまたま同じプログラムに参加する韓国 girl と会う機会が多かったので、彼女たちの buddy も様々な場面で助けてくれました。また、学生 buddy は友達をつくる手助けもしてくれました。ガジャマダ大学はインドネシアトップの大学ということもあり、学生は英語を話せるので、見ず知らずの子でも日本人を気にかけてくれてとても優しいです。学生は忙しそうですが、勉強一筋というわけでもなく、何かしら活動をしていたのでとてもいきいきして見えました。積極的にご飯に誘っても喜んでOKしてくれるので、日本では消極的な子でも恐れることはないです！！

### 同じ大学へ行く後輩へのアドバイス（300字程度）

ガジャマダ大学があるジョグジャカルタはとてもいいところです。たまたま学生寮が空いていなかったために最初から cos に住んだのですが、自由で快適に過ごせました。私は少し潔癖症が入っていて、最初にご飯屋さんに入るのに抵抗がありましたが、除菌ウェットティッシュを常に持ち歩き、気にすることはなりました。インフラ整備は不完全ではありますが、基本的になれます。「郷に入っては郷に従え」精神です。また、授業が3日だけであったため4日間の休みは他の都市にも観光に行きました。実験もなかったので時間は有り余っています。留学前、ガジャマダ大学は一限の開始が早いことがネックだと考えていましたが、午前中で終わるので午後少し仮眠をとってから遊びに行くこともできました。各授業で日本人に興味を持って積極的に話しかけてくれる子が多かったので、たくさん遊んで自分の経験をつくる機会はたくさんあります！！



留学の様子がわかる写真（画像2枚程度）

